

# ふれあいⅡ

学校教育目標  
「やさしく かしこく たくましく  
自分のよさを生かして  
未来を創ろうとするしゃちっ子」  
の育成

令和8年1月8日 校長 重松 景二

愛でいっぱい、学びでいっぱい、遊びでいっぱいの学校にする

アップデートしよう（未来を創るのは子どもたち）

あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願ひいたします。…



新年あけましておめでとうございます。  
2026年の幕開けです。本年もよろしくお願ひいたします。

今年は午年ということで、「活発・行動力・自由」の年になるそうです。子どもたちに暮らし合わせると、すでに活発ですし、行動力もあって、自由な発想も豊かなので、ぴったりの年とも言えそうです。年男、年女になる子どもたちもいますから、更なる発展の年になるとよいと感じています。

年末には、子どもたちに「一年の計は元旦にあり」という話をしました。子どもたちは元旦に目標を立てたでしょうか。私は「一日50笑い」と「一日30ありがとう」の二つを目標にしました。本日の全校朝会でもそのことを子どもたちに話しました。まず「笑い」についてです。子どもたちは1日に約400回笑っているのに対し、大人は15回ほどだそうです。笑うことにはストレス軽減や免疫力向上、血流改善などの効果があるので、作り笑いでもよいので、たくさん笑うことが大切だという話をしました。次に「ありがとう」についてです。人は1日に20回ほど「ありがとう」を言っているそうです。「ありがとう」を言う言葉を口にすることで、人間関係が柔らかくなり、自分の気分も上向くと言われています。感謝の気持ちを言葉にして伝えることの大切さを子どもたちに話しました。



大切な命を守りたい 魔の7歳といわれているそうで…

警察庁が昨年3月に公表したデータによると、歩行中の交通事故で最も多い年齢は7歳だそうです。学年で言うと1年生にあたり、下校時刻が早く、他の学年と一緒に下校していないことなどが理由として挙げられていますが、この年齢特有の行動パターンも大きく関係しているようです。それは、目の前の関心事に一直線に向かってしまうという行動特性です。道路の向こうに友だちがいると、周囲の状況が目に入らなくなり、安全確認をせず（あるいは、できずに）道路を渡ってしまい、事故に遭うケースが多く報告されています。また、文字情報が目に入りにくいという特徴もあります。「飛び出し注意」といった看板があっても、目に入らない、あるいは見えていても認識できていないという状況が起こりやすいそうです。

学校でも繰り返し指導を行っていますが、子どもたちの安全を守るために、ご家庭での声かけや見守りが大変重要です。日常生活の中で交通安全について話題にしたり、実際に通学路やよく通る道と一緒に歩きながら、「どんなところが危険なのか」「どこで止まるのか」を確認したりすることで、子どもたちの意識や行動は少しずつ変わっていくと言われています。ぜひ、ご家庭でもお子さんと一緒に確認する時間を設けていただければと思います。また、自転車の利用についても注意が必要です。ヘルメットを着用していたことで命が助かったケースは数多くあります。短い距離であっても、必ずヘルメットを着用することの大切さについて、今一度ご家庭でもお話し下さい。

大切な命を守るために、学校と家庭が連携し、子どもたちを支えていなければと考えています。ご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。